

新潟県の肉用牛経営における 生産性向上事例集

～先進事例の工夫を取り入れ生産性を向上しよう～



平成22年3月

社団法人 新潟県畜産協会

繁殖経営

生産性向上の取り組みと成果

市場での評価が高い子牛を生産する取り組み

【取り組み】

育種価の高い繁殖雌牛を保留し、能力の高い母牛群を揃えた。

1

【成果】

生産した子牛の平均販売価格が、雌 41 万円、雄 48 万円と市場平均価格のそれぞれ 32 万円、42 万円を大幅に上回った。



育種価が県内トップクラスの繁殖雌牛

分娩間隔を短縮する取り組み

【取り組み】

発情観察時間を増やし、授精適期に人工授精を実施した。

1

【成果】

繁殖牛の分娩間隔を 14.5 か月から 12.9 か月に短縮することができた。



牛房で飼養する分娩後の繁殖牛

【取り組み】

牛房のマセ棒にカラーテープを巻き付け、色の違いにより繁殖牛、育成牛の飼料管理を行った。

2

【成果】

繁殖牛の分娩間隔短縮のほか、子牛の平均日齢体重が雌 1.05kg、雄 1.12kg と市場平均のそれぞれ 0.92kg、1.04kg を大幅に上回った。



マセ棒に貼ったカラーテープ

生産性向上の取り組みと成果

自給粗飼料を確保する取り組み

1	<p>【取り組み】</p> <p>耕種農家、肉用牛農家、各2戸で転作作業組合を組織し、地域の転作田 10haで牧草生産を行った。</p>	 <p>転作田を活用した牧草生産</p>
	<p>【成果】</p> <p>牧草は天候に応じてサイレージまたは乾草に調製し、粗飼料を100%自給するとともに、1kg当たり生産費は乾草換算で7円と安く調達できた。</p>	
2	<p>【取り組み】</p> <p>地域の耕種農家と連携して、水田7haから稲わらを収集した。</p>	 <p>稲わら収集田に施用する堆肥</p>
	<p>【成果】</p> <p>稲わらは、天候に応じて2/3をラップし、効率的に利用するとともに、1kg当たり約7円と安く収集できた。</p>	
3	<p>【取り組み】</p> <p>牧草栽培を行い、2戸共同のスーパーカーを利用して効率的に収穫し、青刈り給与を行った。</p>	 <p>牧草収穫に活躍するスーパーカー</p>
	<p>【成果】</p> <p>牧草は、生草1kg当たり3.5円と安く生産でき、購入飼料費を年間48万円節減できた。</p>	

黒毛和種肥育経営

生産性向上の取り組みと成果

肥育牛の枝肉品質を向上する取り組み

1

【取り組み】

過去の肥育データを分析して、もと牛選定に活用する等により資質に優れたもと牛を導入した。

【成果】

肥育牛の枝肉品質は、3年間継続してA4以上率85~95%を達成できた。



選定して導入した肥育牛

2

【取り組み】

肥育前期には栄養価の高い牧乾草等の粗飼料を給与した。

【成果】

肥育牛の疾病が少なくなり、平均枝肉重量は480kgを達成できた。



良質粗飼料を給与する肥育前期牛

3

【取り組み】

肥育スペースを十分確保し、個体毎の採食、飲水状況を観察して、異常牛に対して別管理を行った。

【成果】

肥育効率が向上し、肥育牛の発育のバラツキがなくなったことにより、枝肉平均単価が2,300円（平成21年）と高くなった。



管理の行き届いた肥育牛

黒毛和種肥育経営

生産性向上の取り組みと成果

肥育もと牛を低コストで調達する取り組み

【取り組み】

肥育もと牛を自家生産するために、繁殖牛5頭を導入し、自給粗飼料を活用して飼養し、4頭の子牛を生産した。

1

【成果】

分娩間隔12.6か月で、繁殖牛を低コストで飼養することにより、肥育もと牛を購入した場合に比べて、1頭当たり22万円安く調達できた。



繁殖牛舎で飼養する繁殖牛

販売収入を増加する取り組み

【取り組み】

経営を中止して空いている牛舎を長期低利の制度資金を利用して購入し、妻の経営参画により規模拡大を図った。

1

【成果】

肥育牛出荷頭数が31頭から55頭に増加し、販売収入が3,377万円から1.8倍の6,077万円に増加した。



制度資金を利用して購入した空き牛舎

【取り組み】

完熟堆肥を生産し、袋詰めやバラで販売した。

2

【成果】

堆肥販売により、肥育牛1頭当たり29千円、合計92万円の収入を確保することができた。



袋詰めで販売する堆肥

黒毛和種・交雑種肥育経営

生産性向上の取り組みと成果

疾病の発生を予防する取り組み

1

【取り組み】

哺育房は空舎後、生石灰液を噴霧器で吹き付けて消毒した。さらに毎日、飼槽、水槽、牛舎内外の清掃を行った。

【成果】

哺育牛、育成牛の死廃が全く発生せず、肺炎、胃腸炎の発生件数が6割に低減された。



生石灰で消毒した牛房

夏季の暑熱による被害を防止する取り組み

1

【取り組み】

夏季は牛舎の窓に遮光ネットを設置して暑熱対策を行った。

【成果】

直射日光の侵入が防止でき、牛舎内温度の上昇が抑えられた。



牛舎に設置した遮光ネット

2

【取り組み】

飼料タンクを反射シートで覆った。

【成果】

飼料タンクが直射日光から遮断され、タンク内の飼料の変質による無駄がなくなった。



飼料タンクに設置した反射シート

黒毛和種・交雑種肥育経営

生産性向上の取り組みと成果

自給粗飼料を確保する取り組み		
1	<p>【取り組み】 河川敷等を活用し、肉用牛農家3戸共同機械を活用し、牧草を8.5ha栽培した。</p> <p>【成果】 全てラップサイレージに調製し、粗飼料の85%を自給できた。生産費が乾草換算1kg当たり13円と安くなったことから、購入飼料費を年間332万円節減できた。</p>	 <p>河川敷を利用した牧草栽培</p>
2	<p>【取り組み】 稲発酵粗飼料を地域の耕種農家と連携して収集したほか、自家水田でも生産を行った。</p> <p>【成果】 稲発酵粗飼料を1kg当たり7円で調達でき、年間購入飼料費を76万円節減することができた。</p>	 <p>生産した稲発酵粗飼料</p>
3	<p>【取り組み】 自家水田のほか、地域の耕種農家と連携して、ロールベアラを活用した稲わらの収集を積極的に行った。</p> <p>【成果】 稲わらを効率的に収集でき、費用も1kg当たり3円と安く、粗飼料の自給率を17%から31%に向上できた。</p>	 <p>ロールベアラで収集した稲わら</p>

飼料価格の高止まりと生産物価格の低下に対して、各種の経営安定対策が講じられていますが、畜産経営においては、より一層の生産性向上やコスト低減が不可欠となっています。

今回、県内の肉用牛経営が生産性向上に取り組んだ2年間の成果を取りまとめました。

是非、参考にして生産性向上を図りましょう。

〔お問い合わせ先〕

社団法人 新潟県畜産協会

新潟市西区山田 2310-15

TEL : 025-234-6781 FAX : 025-234-7045

Eメール : shien@ae.wakwak.com

畜産協会では、畜産経営相談窓口を開設しています。

各種資金の借り入れ、経営安定、生産性向上、コスト低減のための方策等についてお気軽に御相談ください。